日光田母沢御用邸の魅力

明治期に各地に造営された数ある御用邸の中でも最大規模の木造建築で、・付属邸を含めた御用邸の中で本邸が現存する唯一の建物です。

--御用邸の位置付けと建物の概要--

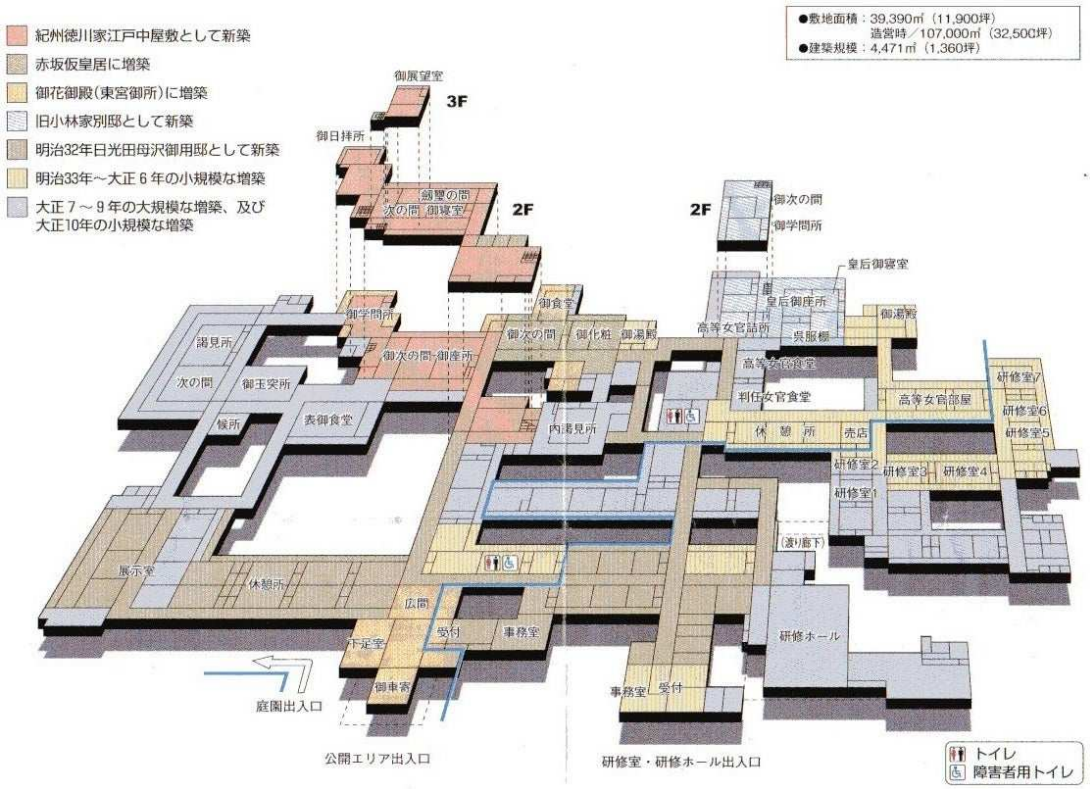
・皇太子（後の大正天皇）のために造営され、・明治 31 年 4 月民有地を買収し、翌年 1 月起工、7 月に殆どが完成しました。

・新営の宮殿は赤坂離宮所在元紀伊徳川氏邸宅の一部を移築し、買上民家に改造を施し、これに増築が行われています。

・一部は二階及び三階建その他は総て平屋建となっています。御車寄、受付の間、各事務室、皇族休所、謁見所、御玉突所、御食堂、聖上御座所、内謁見所、皇后宮御座所、調理所及び女官部屋その他より成り、その中公用室及び事務室は立式にして私室は座式又は立式を併用しています。（明治工業史第五章第一節第一概説より）

・大正時代になると、それまで皇太子の別邸であった日光田母沢御用邸は、天皇の別邸として位置付けられて、より重要な施設となりました。

・夏季の長期滞在は皇太子時代に既に恒例化し、天皇即位後も変わることなく続けられたため大正時代には大規模な増改築や模様替えが相次いで行われています。

・その後、昭和 22 年御用邸としての役目を終え廃止、払い下げとなりました。

・江戸時代の移築建物、明治時代の在来建物と新築建物及び大正時代の増築建物が用途別に配置され、廊下でつながり江戸・明治・大正の三時代の和風建築様式が分離されながら一つの建物群として構成された極めて貴重な建築物です。